

県医活動報告

日本医師会女性医師支援センター事業九州ブロック別会議

日 時 令和元年10月19日(土) 14時

会 場 KKRホテル熊本 2階 ローズホール

出席者 大分県医師会常任理事 貞永 明美

大分県医師会男女共同参画委員会

委 員 長 谷口 邦子

副委員長 松浦 恵子

委 員 中田 健

日本医師会女性医師支援センター事業九州ブロック別会議が「地域でも活躍できる環境を目指して」をメインテーマに開催され、各県の取組が報告された。ディスカッションでは「地域でも活躍するにはどのような支援が必要か」について協議が行われた。

挨 拶 (1) 熊本県医師会長 福田 稠

(2) 日本医師会常任理事 平川 俊夫

【報告・協議】

1) 日本医師会女性医師支援センター事業について

日本医師会常任理事 平川 俊夫

① 日本医師会女性医師バンクについて

広報効果もあり、平成28年度より求職者登録が6倍に増加し、就業成立も増加した。また、ドクターバンク事業に関するアンケートを実施し、運営手法や費用の問題で開設できない都道府県が多数あること、開設している県でも、バンクが機能していないことが判明。なお、県をまたぐ転入・転出に対応するために、全国レベルで連携がとれる仕組みについて検討する必要性について報告がなされた。

② その他

今年度よりブロック別会議の開催方法が、決められた二つのテーマで議論されることとなった。また、最後に日本医師会より、院内保育・病児保育の充実へ向けた予算や、デイケア、ショートステイ施設等の充実も子ども家庭局に要望していることが報告された。

2) 「地域でも活躍できる環境の好事例」について

① 福岡県

行政の地域における子育て支援「福岡県女性医師キャリア形成支援事業」として、「医師のためのキャリア支援アンケート」を臨床研修病院（45病院）に行い、30病院（67%）が回答。院内保育73%，病児・病後児保育30%，学童保育0%の保育環境であった。現状では病院単位での学童保育は困難だが、地域の子育て支援は充実しており、校区でのカバー率は97%。利用者や利用希望者によるアンケートでは、19時までの学童保育、小学校6年までの利用を希望する者が47.48%と多かった。

医師キャリア支援に関するアンケート
福岡県臨床研修病院 45病院

	なし			2015年比 (35病院)
院内保育	11	34	76%	0
病児保育	28	17	38%	+7
病後児保育	34	11	24%	+5
学童保育	45	0	0%	0

2019年アンケートと2018年バザバアンケート結果から

2019年医師キャリア支援に関するアンケート
福岡県臨床研修病院 45病院中
30病院（回答率67%）

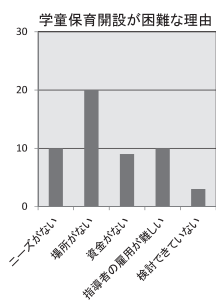
- ・ 院内保育あり 23 施設（73%）
入園待ちあり 2
定員 14～108名 40名台が多い
- ・ 病児保育あり 9 施設（30%）
予約必要 7 不要 2 回答なし 2
定員 3～5名
年間利用数 3125名
- ・ 病後児保育 9 施設（30%）
- ・ 全て、医師の利用可

2019年医師キャリア支援（学童保育）に関するアンケート
福岡県臨床研修 30病院（回答率67%）

- ・ 学童保育あり 0 施設
- ・ 学童保育開設予定 0 施設
- ・ 地域の学童保育利用者
いる 7 施設
いない 14 施設
不明 9 施設
- ・ 長期休暇のみの開設困難 30 施設

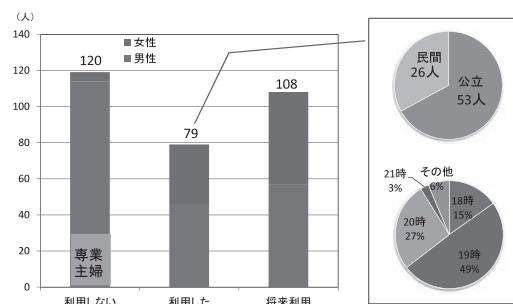
現状では、病院単位での
学童保育開設は困難か

地域の子育て支援の利用、充実



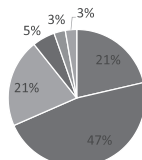
その他 ニーズ未検討、小学校への迎え困難

学童保育を利用しましたか？
もしくは将来的に利用したいですか？



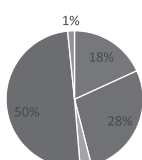
学童保育の利用者と将来の利用希望者 187人

何時までの学童保育が必要だと考えますか？



- 18時まで(40人)
- 19時まで(88人)
- 20時まで(39人)
- 21時まで(10人)
- 22時まで(5人)
- その他(5人)
- ★その他:24時間

何年生までの学童保育が必要とお考えですか？



- 3年生まで(34人)
- 4年生まで(52人)
- 5年生まで(5人)
- 6年生まで(93人)
- その他(3人)
- ★その他:2年生

また県医師会男女共同参画部会、勤務医部会を通じ、医学生、研修医、勤務医、開業医にワークライフバランスについて論議し、交流会を行っている。

② 鹿児島県

鹿児島県医師会の取り組み

- ①卒業証書授与式で女子医学生へ県医師会からのメッセージを配布
- ②医学生・研修医等をサポートするための会の開催
- ③地域における女性医師支援懇談会の開催
- ④女性医師の勤務環境の整備に関する病院長、病院開設者・管理者等への講習会の開催予定
- ⑤鹿児島大学病院女性医師等支援センターとの交流
- ⑥院内保育、病児・病後児保育施設の訪問

鹿児島県内の病児保育施設について (基幹型病院を除く)	
市町村	件数
鹿児島市	9
鹿屋市	1
枕崎市	1
出水市	1
指宿市	1
薩摩川内市	2
日置市	1
霧島市	1
いちき串木野市	1
志布志市	1
奄美市	1
伊佐市	1
姶良市	1

【17市町村 26箇所】

令和元年5月1日現在

鹿児島県医師会の取組を紹介後、研修指定病院10施設に対して行った、アンケート結果を報告。院内保育90%，病児保育20%，病後児保育40%。好事例として霧島市立医師会医療センターなどを紹介。

霧島市立医師会医療センター

- ・他園に通う就学前の子どもたちの終園後のお預かりも行っている。
- ・管理栄養士による完全給食制度
- ・宿泊（夜間）保育あり
- ・平成27年5月から学童保育を開始
- ・長期休暇のみ等の利用も可能
- ・病棟会議・職員研修等にも対応



川内市医師会立市民病院 (事業所内保育事業)



- ・薩摩川内市から運営費の補助金あり
- ・24時間保育完備
- ・病児隔離室あり



- ・運営費（自治体から）
- 平成27年度：5000万円弱（初年度）
- 平成28年度：5500万円弱
- 平成29年度：6000万円弱
- 平成30年度：7700万円弱

枕崎市立病院（枕崎市病児保育施設）



- ・市民から希望の声が多かった、病児保育施設を設置した。
- ・公立病院が病児保育施設を整備・運営している。（県内初）

南風病院（学童保育）

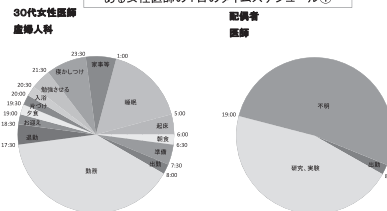
- ・シニア世代の生涯にわたって健康でいきいきと活躍できる街づくりをコンセプトにしている
- ・夏休みは職員の子どもも預かっているが基本は地区の子どもたち



地域支援の紹介や、「家庭内での男女共同参画はすすんでいるのか」について、男性医師、女性医師のタイムスケジュールの比較、アンケートを提示し、男性医師の家庭人としての自覚や意識に訴えた。

家庭内の男女共同参画は 進んでいるのか

ある女性医師の1日のタイムスケジュール①



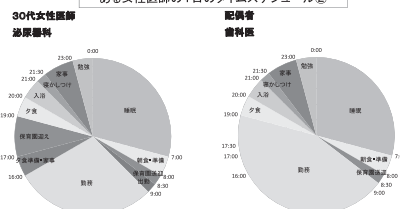
パートナーの子育て参加はいいのですがパートナーとの家事・子育てで分担などについてご意見等がございましたらご記入ください。

女性医師の立場について、パートナーからのご意見等ございましたらご記入ください。

手伝っている方だとは思いますが、あまり頼ると怒るので頼みづらい。まわりに同じような共働き夫婦がいない（妻は専業主婦orパート勤務、医局内の子持ち女性医師は全パート勤務）ようで、「自分は仕事もしているのに家事・育児の負担が大きい」と思っている様子。

当直をするなど言われると嫌なので聞けない。自分としては月2〜3回の当直がリフレッシュタイムかつ稼働一歩分の仕事でできる時間なので、当直を望んでるが休んでる。

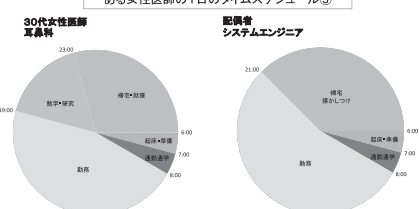
ある女性医師の1日のタイムスケジュール②



パートナーの子育て参加はいいのですがパートナーとの家事・子育てで分担などについてご意見等がございましたらご記入ください。

よくやってくれてる。

ある女性医師の1日のタイムスケジュール③



パートナーの子育て参加はいいのですがパートナーとの家事・子育てで分担などについてご意見等がございましたらご記入ください。

女性医師の立場について、パートナーからのご意見等ございましたらご記入ください。

非常によく参加してくれる。夜かしつけや土曜日の育児等。

月2〜3回であれば、大丈夫ではないか。3才まで、養育の負担もへってました。

アンケートの結果から

- 男性医師の家庭人としての自覚。
- 家庭を慈しむ意識。
- 家事に参加する意識。
- 家庭内の男女共同参画それなくして、医療界の働き方改革はない。
- なぜならば、働き方改革の中で、現場の女性医師の役割は更に大きくなるから。

パートナーの子育て参加はいいのですがパートナーとの家事・子育てで分担などについてご意見等がございましたらご記入ください。

- 時間のある時は手伝ってくれて助かりました。が、パートナーは仕事第一にしてもらいました。
- 家事、子育ては基本全て自分が行っている。パートナーは、土・日の子供の習い事をたまに連れていったり、朝自分（私）がまとめたゴミをゴミ出しする位です。
- 手伝ってくれている方だと思うが、あまり頼ると怒るので頼みづらい。まわりに同じような共働き夫婦がいない（妻は専業主婦orパート勤務、医局内の子持ち女性医師は全員パート勤務）ようで、「自分は仕事もしているのに家事・育児の負担が大きい」と思っている様子。

パートナーの子育て参加はいいのですがパートナーとの家事・子育てで分担などについてご意見等がございましたらご記入ください。

- ぼちぼち、手伝ってくれてる方だと思うけど、もっと自発的に手伝ってくれるとさらにうれしいし助かる。
- もう少し積極的に（主体的に）関わってほしいが、現実には多忙すぎて不可能なのであきらめている。
- 共働きの場合は、家事を分担してもらえると助かります。子どものお迎え等は、行ける方が行く、または、両親の援助もほしいです。

パートナーの子育て参加はいいのですがパートナーとの家事・子育てで分担などについてご意見等がございましたらご記入ください。

- パートナーも同業で半単身赴任なのですが、帰ってこれても夜遅く、出ていくのも朝早くな状況です。子煩悩で協力的ですが現実的には難しいです。
- 基本的に言わなければ何もなくていいと思っているため、指示するのが億くうになり、洗濯をまわす、ご飯の準備の間の子守りだけはしてくれる感じ
- 園への送迎はほぼ自分ですが、血洗い、食事、お風呂は分担。寝かしつけはママっ子なので、やはり母親の方が多い。

パートナーの子育て参加はいかがですか？パートナーとの家事・子育て分担などについてご意見等がございましたらご記入ください。

- ・PTA参加など、できることはやってくれています。平日遅い分、休日は子供たちと過ごしてくれています。
- ・もともとほとんどしないが、単身赴任のため、さらにほとんどしない。
- ・今は単身赴任でいませんが、仕事が忙しく、ほぼ自分か、同居の母がしている。
- ・家にいるときは子供の入浴やゴミ出しの手伝いはしてもらう。家事・子育ては基本的には自分・母が同マンションで子どもの迎えと夕食を手伝ってくれています。

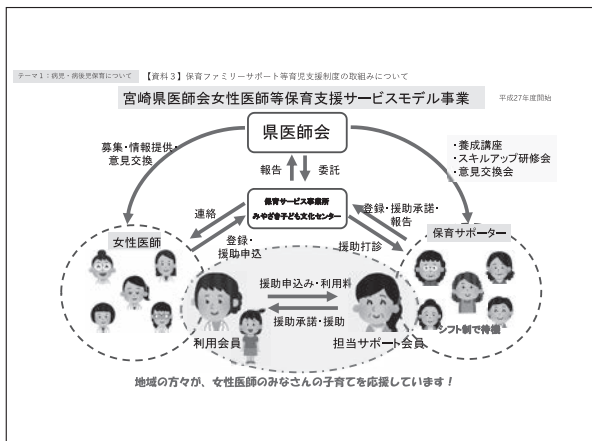
16

③ 佐賀県

県内基幹病院で病児保育を併設している施設は無し。今後、開設する予定の施設も無し。
学童保育の待機児童数は250人。佐賀市内では3年生までが学童保育の対象となっているが、地域によっては2年生で、既に入れない児童がいる。

④ 宮崎県

研修指定病院7医療機関中、院内保育85.7%，病児保育28.6%，病後児保育71.4%が開設。
好事例として、宮崎県医師会女性医師等保育支援サービスモデル事業を紹介。
県医師会が保育サポーターを養成、保育サービス事業所に委託し、地域の方々が女性医師を応援している。利用している女性医師会員58名。保育サポーターは33名が登録。



宮崎県医師会女性医師保育支援サービスモデル事業 活動状況			
■登録者数 (R01.3.19現在)		■活動内容	
	合 計	➢ 保育園・幼稚園の迎え	
女性医師利用会員	58名	➢ 学童保育への迎え	
サポート会員	33名	➢ 習い事への送迎	
■活動実績 (平成30年度)		➢ 保育園・学校のお休み時のお預かり	
【預かり区分】		➢ 保護者の研修会等参加時のお預かり	
通常のお預かり	218件	➢ 保護者の外出時のお預かり	
病後児のお預かり	15件	➢ 病後児のお預かり	
宿泊のお預かり	0件		
合計	233件		
		【活動サポーター】	
		担当者	228件
		シフト待機者	5件

⑤ 沖縄県

16施設中、院内保育75%、病児保育43%、病後児保育31%、学童保育0%の開設状況。

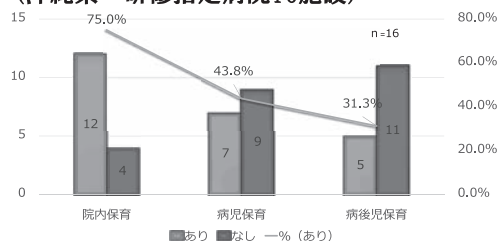
病児・病後児保育について アンケート結果

- 1、院内保育は、16施設中12施設で開設されている
- 2、病児保育受け入れは、うち7施設（予約が必要）で可能
定員、年間利用人数はさまざま（利用例は多い）
- 3、病後児保育受け入れは、同じく5施設

*学童保育をすでに開設、あるいは今後予定している病院は
なかった。

*臨時学童学童保育に関しても開設困難の回答だった。

院内保育・病児保育・病後児保育の実施状況 (沖縄県 研修指定病院16施設)



好事例として北部地区医師会病院を紹介。地域で活躍する取り組みとして「職場の雰囲気をよくする」「勤務先に託児施設がある」とあり、環境を整えることは職場スタッフ全体に良い効果をもたらすとした。また、上級医が趣味で休む事を明言してくれることなど、働き方改革にもつながる例であり、“早く帰る文化”“休む文化”が醸成されている。医師数の増員は容易でなく、医師の労働時間削減に向け、多職種連携体制の実現のため、医療職によるカンファレンスを実施している。課題認識や分析、連携の質の向上、医師以外のスタッフの強化などを重点に取り組んでいる。

北部地区医師会病院の例

- 沖縄本島北部に位置する200床の病院。
対象は12市町村13万人

- 職員は650人、医師は38人
(うち女性医師5人、研修医は3人)

- 女性医師の就業率のM字カーブの
離職を小さくするためにできること

- 職場の雰囲気をよくする
- 勤務先に託児施設がある

- 環境を整えることは、働くスタッフ全体により効果をもたらす



職場の雰囲気をよくする

- 女性医師座談会であがった声は…

- 子育てしながらキャリアを積むのに、居心地がいい。
- 上級医が積極的にカバーしてくれる。
- 医局内の雰囲気が良く、他科も相談しやすい。
- 上級医が趣味で休むことを明言してくれるため、「私もここで休みたい」と言いやすい。
- 子供のことで帰宅を告げると「早く帰って」と送り出してくれる。
- 上級医がコメディカルスタッフを大切にしている。



若手医師育成

垣根のない医局



早く帰る文化
・休む文化



託児施設があること

- 職員の子育て支援、職場復帰等を図るため、
 - 平成3年より院内保育を開始。
 - 定員60名（医師の子供は6名）
 - 受入児童は生後2ヶ月から4歳児まで
 - 延長保育にも対応する。
 - 保育料は無償（名護市の支援制度を活用）
 - 現在2名の卒園児が職員として従事している。

医師の働き方改革に向けた取り組み

- 医師の数を増員は容易でなく、医師の労働時間削減も必要。
- 医師が少ない中で医療を行うために
 - 多職種連携体制を実現するため、医師を含めた医療職によるカンファレンスを実施し、課題認識や課題分析を図り、連携の質を高めている。
 - 医師以外のスタッフの強化
 - 薬剤師リクルート、ナースプラクティショナーの活用
- 担当の患者だけでなく、病院の患者を全職員でみる
- 医師の健康を守る
 - カップラーメンばかりでなく、レトルト総菜を充実させる



多職種連携

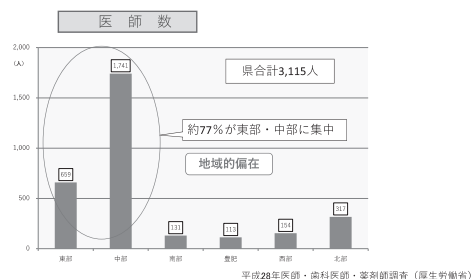


NPによるPICC挿入

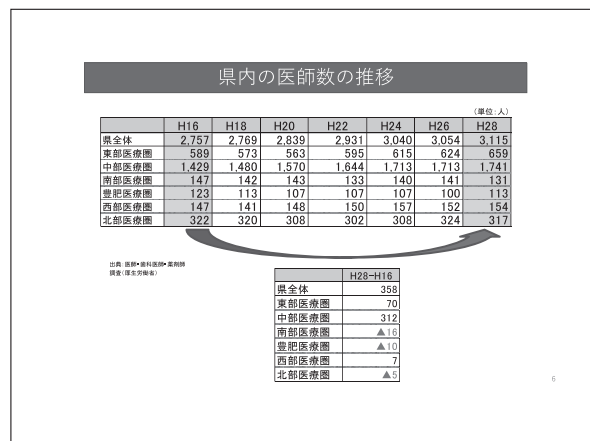
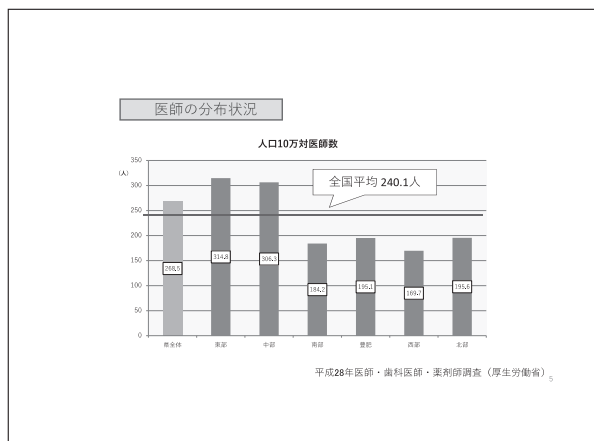
⑥ 大分県

大分大学の中田 健先生より「地域とは?」「活躍とは?」を題材に発表。

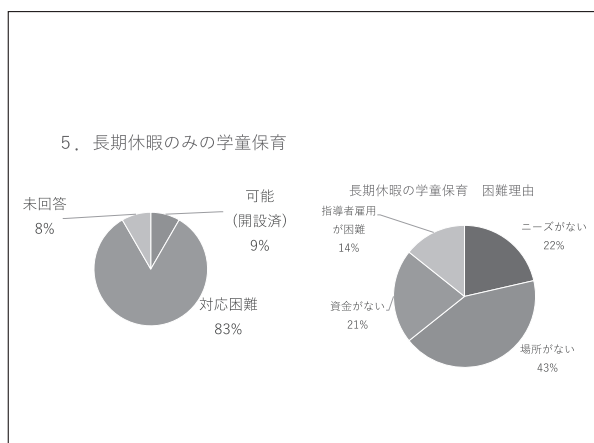
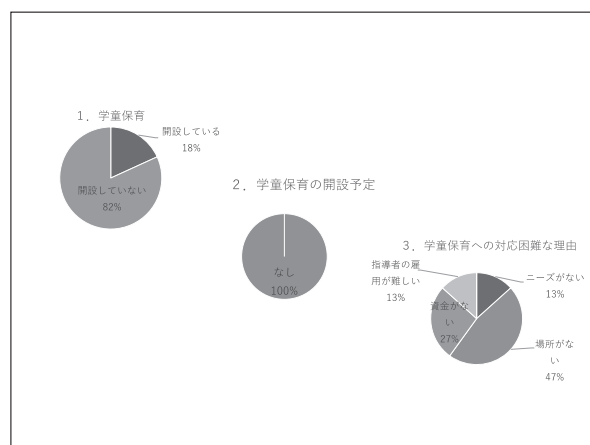
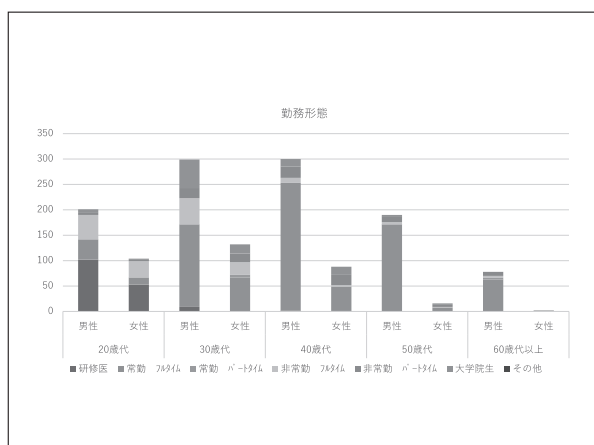
大分県は全体の2次医療圏を6医療圏に設定し、医師数は中部、東部に77%が集中している地域偏在の状況を紹介。



医師の分布状況は県全体では全国平均を上回るが、東部、中部以外は下回ることから、県全体の医療の課題とともに考えていく必要性を提示した。



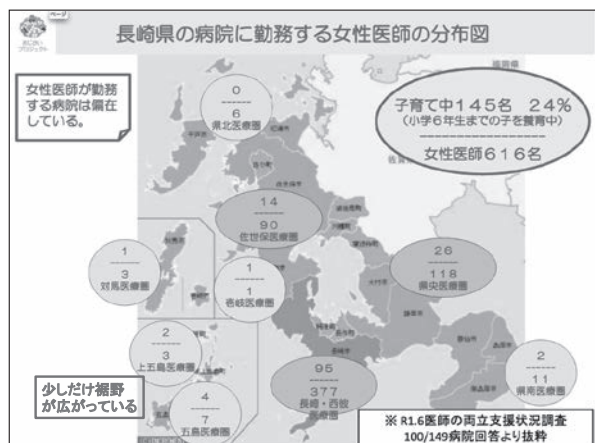
研修病院におけるアンケートで学童保育に関して報告。



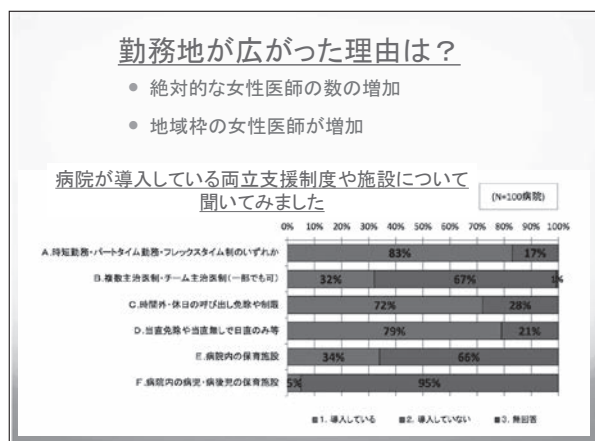
学童保育は18%が開設。学童保育を開設していない医療機関に、今後も開設予定がない理由として、場所がない47%、資金がない27%、ニーズがない13%との回答があった。

⑦ 長崎県

長崎県の病院に勤務する女性医師のうち子育て中は147名（26％）で都市部に局在しているが、令和元年6月の医師の両立支援状況調査では少しだけ裾野が広がっている。これは絶対的医師女性医師数の増加、地域枠の女性医師の増加によるものと思われる。



両立支援制度や施設について、時短勤務・パート勤務・フレックス制83%，複数主治医制・チーム主治医制32%，時間外・休日の呼び出し免除72%，当直免除・当直なしで日直のみ79%，病院内の保育施設34%の病院が導入している。



また、ワークライフバランス推進員が、各医局の旗振り役として大学の各医局、長崎県鳴滝塾
関連病院16病院に40名在籍しており、医局窓口として医師のワークライフバランス実現に
関する相談、情報発信、企画などを担っている。

ワークライフバランス推進員 とは

各医局の旗振り役として
大学各医局
長崎県鳴滝塾関連病院16病院

推進員は男女を問わない
希望者優先であるが、医局長、教授推薦

あじさい通信により情報の提供

現在、長崎県内16病院に
ワークライフバランス推進員40名がいます。

ワークライフバランス推進員の役割

医局窓口としてメディカル・ワークライフバランスセンターと有益な情報交換や協力関係を築く

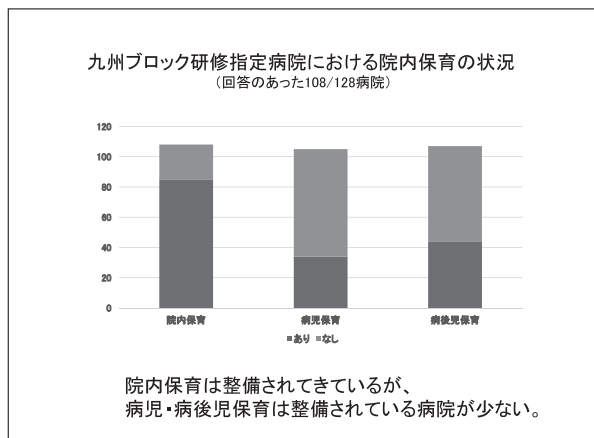
医師のワークライフバランス実現に関する相談窓口、
情報発信、企画などの役割を担う(あじさい通信)

院内に推進員がいることで、また自分がなることで
若手医師のモチベーション維持
自分らしいキャリアデザインのイメージに役立てられる。
地区の周辺の病院への波及効果

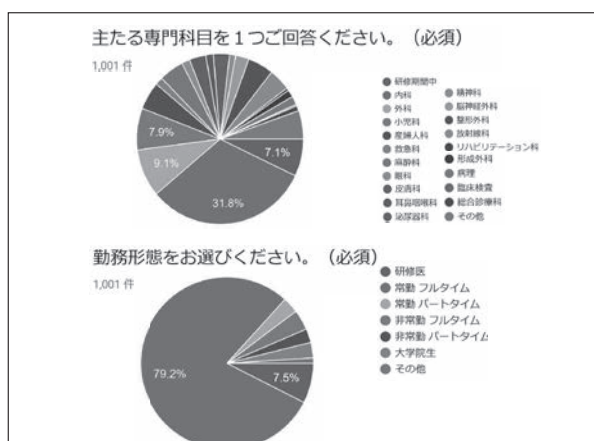
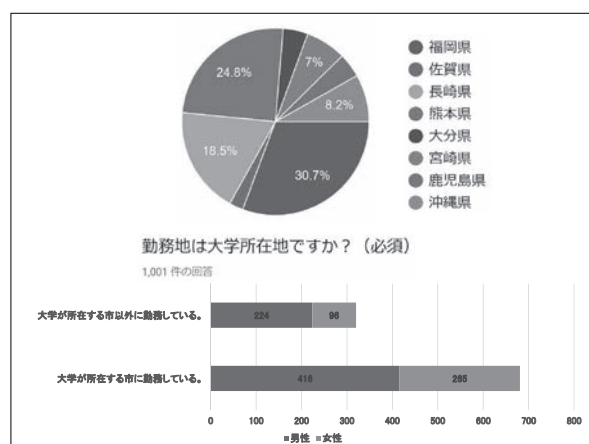
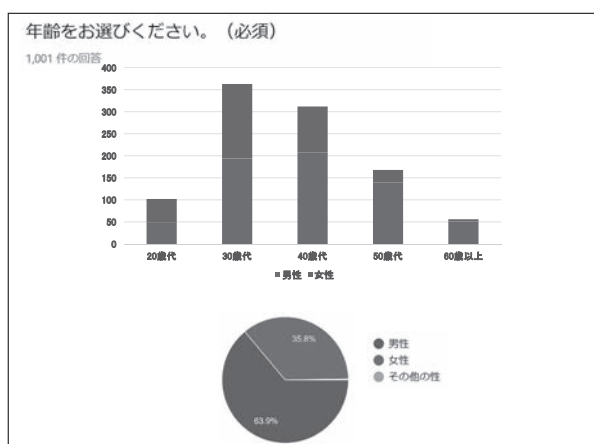
⑧ 熊本県

開催県として、病児・病後児保育について九州ブロック研修指定病院に、院内の保育状況をまとめたアンケート調査を施行。

また、九州ブロック研修指定病院に勤務する全医師に「学童保育」に関するアンケート調査を施行。院内保育は整備されてきているが、病児・病後児保育は整備されている病院が少ない状況。

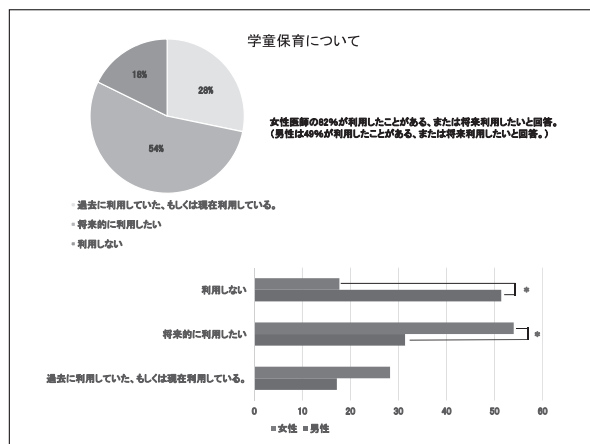
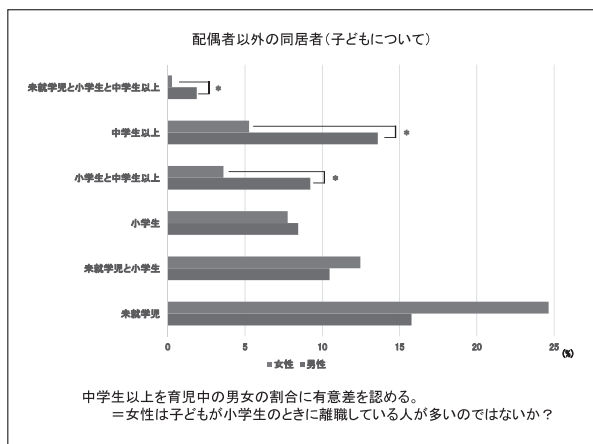


全医師数のうち 男性63.9%，女性35.8%で、勤務地は大学が所在する市に勤務する医師が多数を占めた。年代は30歳代男性63.9%，40歳代女性35.8%で内科が31.8%，常勤フルタイムが79.2%と最も多く、72.3%が既婚であった。

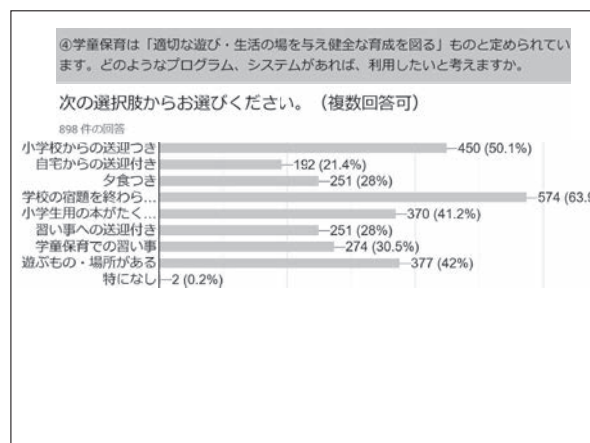
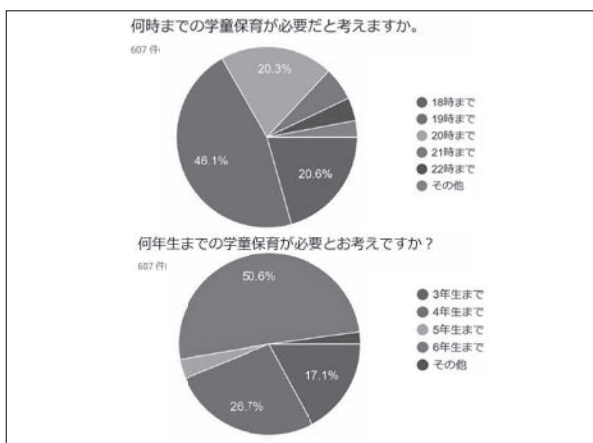


今回のアンケート結果より、中学生以上を育児中の女性医師は臨床研修病院で勤務できていない可能性が明らかとなった。中学生以上を育児中の男女の割合に有意差があり、女性は子どもが小学生の時に離職している人が多いのではないかと考えられる。

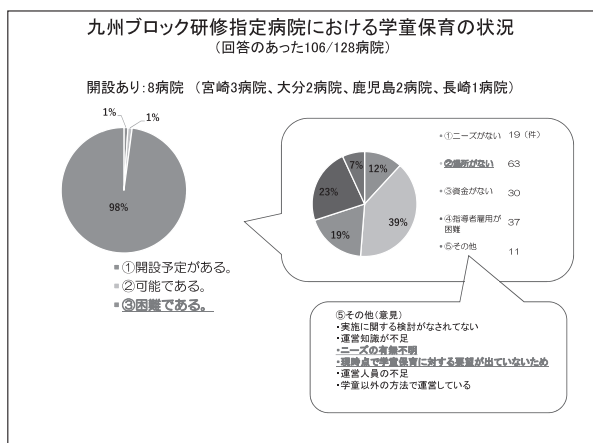
また、女性医師の82%が学童保育を利用したことがある、もしくは、将来利用したいと回答した。



「6年生まで」「19時まで」の学童保育を希望する声が多く、長期休暇や臨時の学童保育を希望する声が多かった。



なお、小学校からの送迎、宿題を終わらせることを希望する声が多く、学童保育のニーズに関する全国的な調査と整備を希望すると報告された。



(報告：貞永 明美)